

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人 菊寿会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町長529番地		
自己評価作成日	令和5年11月24	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.ip/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな山間地、周りは栗園もあり、鳥のさえずりも聞かれる静かでのどかな環境の中にある。ホームは木造平屋建での環境に優しい「地中熱」を取り入れた住まいである。新型コロナウイルスの影響でまだまだ地域住民との交流は以前のようにできていないが季節毎花見やドライブ等の外出の機会を増やしている。また、面会も対策を取りながら直接会って頂くなど入居者、ご家族共に安心感に繋がりがり面会を楽しみにされている。日々入居者の状態に合わせた個別ケアに努めている。食事は、地域の方や家族から頂いたり、地元食材を使い季節感を味わって頂いている。特に季節の行事食等も職員が作り、喜んでもらっている。入居者が日中過ごされる共有スペースでは穏やかに過ごして頂けるような雰囲気心を掛けて支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間にあるホームでは9人の入居者と職員が四季の移ろいを間近に感じながら穏やかな時間を過ごしている。新たに就任した管理者はそれぞれの職員が自身の役割を果たすことや、支え合いながら入居者・家族の思いに応えることができるホームを目指し業務に当たっている。以前のように入居者が調理に関わる機会は難しくなっているが地元特産の栗や柚子をはじめ、地域や家族からの野菜や果物などの差し入れの機会は多く、管理者は有難く感謝して頂き活用していくことを職員にも伝えながら、季節の一品として提供されている。入居者も簡単な下ごしらえや献立への提案、味見など出番が用意されている。隣接する母体特養施設とは日頃から安全対策をはじめ、副菜の調理提供、営繕担当者によるホームの環境整備、イベントへの参加など入居者の生活がより豊かになる様協力体制が構築されている。今後も心の通う支援が継続されていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、本体の理念と共に明日葉ホールに掲示している。また、開設当初よりスタッフのロッカーに貼り、この理念に基づきそれに沿った支援を行っている。	民家から距離を置く場所ではあるが、地域の協力や信頼は厚く“地域と共に歩む”とした基本理念をもとに入居者の“自分らしく生きたい”との思いに応えるよう努力を続けている。次年度の年間事業計画を立てる際に、その年の振り返りと理念の見直しを行い、職員が大事に育てている部分であり、理念を継続する事としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	引き続き本年も新型コロナウイルス感染防止の為地域の行事等は縮小、施設も感染対策で交流は控えている。5月から9月の第2日曜日の作業には、スタッフ2名ずつ参加し、地域の皆さんと一緒に汗を流している。12月の夜警には来て頂いている。山鹿市の広報も川原地区の区長さんが届けてくださり情報交換をしている。	本年度も地域行事などが中止となる中で、年2回の清掃活動には職員が参加し、特に法人周辺の草刈りや側溝の掃除などには安全点検を兼ね地域住民の協力が得られている。市の広報誌は区長の手によって届けられ、入居者も地域情報を楽しみにされているようである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度も、近隣のふれあいサロンや他の地区のサロンは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為縮小となっている。また、本体施設の認知症カフェも中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為会議の中止が2回。その際も活動報告書を委員の皆様へ郵送している。会議は荘内ではなく、交流館等で活動報告を行い、意見をうかがっている。今年度は民生委員が交代された為、民生委員の会議に出席し、運営推進会議の説明、出席のお願いを行った。	本年度は対面での開催が実現しており、感染症の状況によっては書面送付に切り替えて対応している。行政や包括、社協、地域、警察、家族等地域を代表する関係者が参加しており、活発な意見交換や情報収集が行われている。民生委員の交代に伴い、職員が会合に向き運営推進会議の目的や会議への協力を依頼している。	会議が別棟(交流館)で開催されるため、今後感染症の状況をみてホーム内を直接見てもらうことや、ホーム運営を明らかにする点においても年間の事業計画なども発信されることを期待したい。また、理念についても新年度の会議で改めて紹介されると良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアプランの提出はその都度行っている。運営推進会議において、市や地域包括の役割を話して頂いたり、ホームでのケア等伝えている。欠席などの場合は、資料を郵送している。	行政をはじめ町の主要な機関が運営推進会議に参加しており、ホーム運営に大いに反映されている。行政へのケアプランの提出や事故報告を行い、事故の内容については運営推進会議の中でも報告し、参加者の意見をもらうようにしている。認定調査時には家族が同席し、ケアマネジャーが入居者の普段の姿をありのままに伝えて対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体的拘束適正化検討委員会にて「拘束はしない」を基本各部署と確認している。また玄関より、外に出られた事があり、職員間の声掛けの徹底ホールから玄関の間の戸に鈴をつける等行った。他事業所に入居者の写真を職員間だけに共有しているが、入居された場合の差し替えを必ず行うようにした。	毎月法人で開催する身体拘束適正化委員会に参加して全職員と共有するとともに、ホームでは事例をもとに意見を出し合い、検討するようにしている。新年度には虐待防止委員会の設置が決まっており、入浴時のポディーチェックなどを含め、職員一人ひとりが拘束や虐待について高い認識を持ってケアにあたるようにしている。言葉使いについては「ちょっと待って」を使わざるを得ない場合には、前後にその理由を言葉で伝えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年全体研修で法令遵守や身体拘束、虐待防止の全体研修、毎月の委員会で各事業所、身体拘束同様、虐待防止についても話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はおられない。事業所職員は施設内外の研修も受ける機会がなかった。法人で年間を通じ権利擁護の研修を受講した職員に発表して復命をもらった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書について説明を行い、納得されたことを確認して同意をお願いしている。又、「リスク説明書」と「急変時および重度化時の対応における事前意思確認書」「医療体制の説明同意書」の説明を行い、納得されたことを確認して同意をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折りにご家族の意向を尋ねたり、現時点の状態やケアの在り方などの説明、報告を行っている。必要時ケアマネがケース会議を行い、管理者並びに看護師も同席。開催できない場合は、ご家族に電話でお話を聞く等し、ご意見を反映している。また、運営推進会議の際、家族代表者から、異動等もあり荘内に入れない為現在の職員がはっきり分からないとの意見があった。通信に職員紹介で写真を載せた	面会時や運営推進会議を通じて家族の意見を引き出すようにしている。会議に参加した家族からコロナ禍の影響や異動により職員との接触が少ないことから顔がわからないとの意見があり、「あしたば通信」に顔写真を載せて紹介している。入居者の意見は日々のやり取りから収集し、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や日常の中で意見交換を行いながらサービス向上に努めている。また、決定事項については申し送りノートや伝言メモにより、全スタッフに周知徹底をしている。半年に1回の個別面接時にも意見や提案等の聞き取りをしている。	朝食の時間を利用し、入居者の様子を見ながら申し送りの場を設けている。月の会議では入居者の現状を共有し、ケア向上や業務改善に繋がる意見交換を行い、年2回の面談で個別の意見や要望を収集している。職員は毎年年目標を立てており、各自が評価しながら振り返りの機会をもっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から職員の話をしている。評価制度を取り入れており、年に2回(上期、下期)個別面接を行い、本人の意欲(目標)の達成感等を聞き、助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体施設の全体研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為中止や緩和された月は実施できた。また、外部研修はほぼWeb研修を活用した。法人で年間契約し事業所で研修に、職員が個々で学べるなど活用した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為県の総会及び研修はウェブ研修となっている。新型コロナウイルス感染防止対策のため山鹿菊池ブロックグループホーム総会並びに研修等は開催されていないが、Line上でグループを作り、必要時情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望に合わせ、会話ができる方達と同じテーブルへセッティングしコミュニケーションが取れるよう支援する。環境変化に対する不安があるため職員の目の届きやすい場所へ居室配置を行い、相互の安心感を得る。また、生活歴を確認し好まれる事を支援、本人の訴えを傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に困っておられる事や不安な事を聴き、できるだけ解消できるように支援の提案を行う。些細な事でも話をしっかりと聴き、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で本人及びご家族が一番必要としている事をスタッフが共有しながら支援し、状況に応じて面会やご利用者とご家族が電話でお話しをされ、不安を取り除くよう工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の身体機能に応じ、洗濯物たたみや食器、お盆拭きなど出来る事をして頂く事により、共同生活の一員として支援し合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘による面会やオンラインでの面会のご協力をして頂きながら、ご家族との絆を保っている。利用者の不穏時にご家族に連絡して話しをしていただくなど、協力を得ながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により、近隣サロンの開催は縮小となっている。ご家族との面会は、感染対策を行い対面の面会、またはオンライン面会や電話にて対応している。家族の同意を得、本人の友人、知人等も面会を行い何年ぶりの再開に涙されたりした	現在面会はマスク着用にて玄関内で行っており、畑で採れた野菜を持参し、入居者に会いに訪れる家族もおられる。当地域の特産である栗を使った団子や栗ご飯作りに入居者も加わり、馴染みの料理に喜ばれたり、顔なじみとなった地元の理容店から定期的な散髪が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う仲間作りもできている反面、トラブルが起こることもある。利用者間の関係性に注意しながらホールでの席の位置を配慮したりしている。また、個別ケアを重視してご本人のやりたい事を見出し、共同生活の一員として支えあうような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者のご家族の意向に合わせ、必要時特養担当者に情報提供を行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でアセスメントを行い、また家族から生活歴や本人の情報を聞きとることにより、本人が必要としている思いや意向をケアプランに反映できるよう努力している。	入居者との普段の関わりの中で確認された思いや家族の意向から入居者が望まれる暮らし方をプランに繋いでいる。自立されているが故に排泄の失敗を入居者自身が嫌がられる場合など、本人の能力を尊重しながら、ポータブルトイレと一般トイレを併用し失敗を減らすような取組を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族に聞いたり、入所前の担当ケアマネージャーに聞いて情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と同じ空間で時間を共に過ごし、観察や会話を多く持つことで状況を把握している。また、記録やスタッフとの情報交換の中から得る情報も多くある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでは、全員のモニタリングを行っている。また、介護計画書が現場で有効に活用される様に計画書は原案の段階でカンファレンスを行いチームで検討し、必要時は修正を行っている。	ケアマネジャーはプラン作成について入居者の状態やこれまでの生活歴、家族の思いを大切にしながら立案するようにしている。ケアカンファレンスで全入居者の評価を行い、作成には全ての職員が関わるようにしている。今年度は担当者会議も再開し、入居者の今を共有したうえで家族からの意向を引き出すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者と夜勤者間の申し送り簿により情報交換を行っている。また、継続的な対応の必要があると思われる事は申し送りノートに記入し、スタッフ間でケアの統一を図っている。またケア記録やスタッフとの情報交換の内容を支援経過にまとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者のご家族からの相談内容に対し、施設として出来る範囲で柔軟な対応を行っている。入院中永眠され、通夜に参列、お盆に訪問しお参りを行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域のサロンは開催されていないが、スタッフが地域の作業に参加して地域の方と声掛け合う事によりつながりを保っている。運営推進会議で地域資源の確認、声掛けを行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため利用者の医療機関受診ができなかった時期は、スタッフが医療機関に利用者の健康状態について情報を提供している。必要な受診時は看護師が付き添い病院で家族と合流支援した。利用者全員訪問診療を依頼し健康管理に努めている。	本人・家族の了承のもと内科は法人協力医療機関による訪問診療と、必要時に受診に出ている。専門医受診は家族のみでは対応が困難であり、職員(主に看護師)も現地で待ち合わせ同席している。歯科については歯科衛生士による月1回の口腔ケア指導を受けており、その際治療の必要の有無を見てもらい、必要があれば通院や訪問による治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は毎朝バイタルチェック他の状態観察を行い、異常があった際は常勤の看護師に報告相談し、必要に応じて受診するなど健康状態安定に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが付き添い、本人やご家族が安心される様に情報を提供する。入院後は医療機関の相談員と情報交換を行い、お互いの関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対しては、老衰等ホームでの受け入れが可能な場合、本人の意思やご家族の考えを十分に検討し支援を行なっていく方針がある。本人、ご家族の思いに応える終末期を支援するために「緊急時及び重度化時の対応における、事前意思確認書」「終末期の医療についての事前調査」を作成し入所時並びに担当者会議の際にご家族の考えを書面で残している。	入居時に継続した医療支援が必要でなく、自然な形の最終であれば対応できることを伝えている。ホームの浴室にリフトが導入されているが、重度化された方への入浴支援としては不十分であることも語っている。また、本人・家族の思いに応える終末期を支援ができるよう、「事前意思確認書」「終末期の医療についての事前調査」を作成し、家族の意向などを書面で残している。家族の中には隣接する法人特養施設での最終を希望される方もおられることがプランからも確認された。	季節を真直に感じながら入居者はゆったりとした時間を過ごされており、引き続き日常の関わりを大切にしたい支援の継続を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、緊急連絡網を作成し全職員への周知徹底を図っている。緊急時の対応については、看護師やかかりつけ医の指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体が福祉避難所でもあることから真空の備蓄食の準備があり、非常食としてインスタント食品を利用者とスタッフ共に常備している。開催可能な時期に合わせて昼間夜間想定火災避難訓練を行っている。また、毎月16日を災害の日として昼食時に利用者スタッフ共に非常食を食べながら、災害が起こった時の対策を考え、確認している。また、部屋の入り口には、火災時などで避難した際、部屋に誰もいない事を確認した印として、手動のライトを設置している。	年2回昼・夜を想定した火災避難訓練を実施している。訓練には設備会社と消防署も可能な時には参加協力が得られている。11月号の広報紙には夜間想定訓練の様子や日頃の訓練が重要であること、次回は昼間想定訓練を予定していることが写真付きで紹介されている。災害備蓄についてはリストに沿って本体施設やホームでも食料、水、排泄用品、コンロなどを確保し、感染症対策の品も備えている。16日は非常食の日としており職員の分も常備している。BCPIについては現在机上での共有のみ行われている。	防災、安全チェックについては、ホーム周辺に燃えるものや危険物がいないか等、新たに追加する項目を検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の支援にあたっては、尊厳やプライバシーに配慮する事をスタッフ間で共有している。スタッフの守秘義務については入職時や委員会、会議の中でも周知徹底されている。	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援については、日頃から職員間での共有を図っている。呼称は苗字や安心されるこれまでの呼ばれ方(下の名など)でも対応している。身だしなみやおしゃれの支援として、起床時の整容や外出、行事の際の衣服の選択は特に本人と一緒に選びおしゃれを楽しんでもらっている。	居室へ入る際のノックや声掛けの徹底については、再度周知の機会が必要としており、取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定がしやすいように分かりやすく説明しているが、理解力の低下がある利用者に対しても思いが出やすいように言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握し、できるだけその方の希望に添える様に支援している(体操や台所の手伝い、洗濯物たみなど)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面整容を行い、一緒に身なりを整えている。外出や行事の時は、洋服もおしゃれして頂いている。敬老祝いの会では、正装をして参加されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みを把握し、日々の食事に取り入れている。また、野菜の皮剥き、お茶碗やお盆拭きをお願いしている。家族や近隣から頂いた野菜は必ず調理し、食事中の話題にし、ありがたぐいいただいている。	ホーム職員による調理が行われているが、昼の副菜のみ法人厨房で調理されたものを提供している。家族や職員などからの差し入れ野菜の活用や地域から届けられた栗は、ご飯や団子など季節の一品となっている。入居者が調理に関わる機会はないが、野菜の収穫や献立への提案、味の評価など出来る事で食に関わってもらっている。職員は休憩を兼ねて持参した弁当などを食べており、味や量などの確認を兼ねた検食者などは設けられていない。	地域や家族などからの差し入れ野菜は有難く受け取り、食事中の話題にしながら食事が進められている。今後も和やかな食事支援が継続されることを期待したい。現在、検食者などは設けられていないが、入居者の代弁者として意見や気づきを今後活かせるよう、1名でも同じものを摂る事が出来ないか検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については、タンパク質摂取を心がけ旬の野菜を中心に取り入れている。カロリー計算は、年1回本体の管理栄養士にお願いし、評価につなげている。嚥下障害のある利用者の食事形態にはお粥や刻み食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に歌を唄ったり口腔体操を行って唾液の分泌を良くし、食事がスムーズに摂れるようにしている。食後の口腔ケアで異常の早期発見に努めている。異常時は歯科衛生士に相談し、家族の了承後歯科医の往診を依頼している(月に1回本体歯科衛生士により口腔ケア指導あり)。個々にあった口腔物品の種類を使用		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをスタッフ間で共有し、トイレでの自力排泄を維持できるよう、適時誘導と介助を行っている。日中はリハビリを兼ねて距離のあるトイレを使用する方や個々に適切な尿取りパットを使用し、時間に合わせた大きさを工夫するなど個々に応じて支援している（夜間ポータブルトイレ使用者あり）。	個々の排泄パターンを職員間で共有し、トイレでの排泄が出来るよう声掛け、誘導、必要な介助が行われている。日中はあえて距離のあるトイレへ誘導することでリハビリを兼ねる等職員の工夫も聞かれた。現在、パットの併用の有無を個々に応じて検討しリハビリパンツを使用される方が主であるが、布パンツのみで過ごされる方もおられる。夜間のみ（日中トイレの空きがない場合は使用もあり）使用される方のポータブルトイレは、昼間はカバーを掛けプライバシーに配慮している。	排泄用品はホームで準備しているが、家族による購入も行われている。サイズや種類など家族が惑われることが無いよう今後も意向を聞きながら支援したいとしている。取組に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維の多い食材（さつま芋やごぼう、オリゴ糖など）を取り入れるようにしている。また、乳製品や果物の提供も心掛けている。排便チェック表をみながら、排便困難な方には食物繊維ファイバーや内服薬も含め排便コントロールに配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者はバイタルチェックを行う。週に2回入浴できるよう努めている。入浴剤の使用や季節に応じた菖蒲湯、ゆず湯も行う。リフト導入により、車椅子の方も湯船の中に入る事ができ、ゆっくり入浴を楽しまれている。	週2回の入浴を基本とし、汚染などがあればその都度対応し清潔保持に努めている。あまり気が進まず拒まれる時には、喜ばれる言葉かけを工夫している。リフト浴が導入されており、車いす利用者が湯舟に浸かる事が出来ている。季節湯（菖蒲・柚子）は継続して取り組んでおり、特に柚子は家族や地域、職員の差し入れもあり開設時から冬至に限らず柚子湯を楽しむことができています。	一緒に着替えの衣類を用意することで安心して気持ちよく入浴される方、拒否があれば別日への変更など個々に応じた入浴支援はプランからも確認された。今後も一人ひとりの入浴の楽しみ方を把握し、取り組まれることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地中熱の利用により、居室も自然な空調の為に、昼夜過ごし易い環境である。本人が、居室で休みたい時は、いつでも休む事ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合は特にICT内の生活支援記録(服薬の記録、ケース、申し送り)に記録をしている。臨時薬の投与後は病状の変化等にも全スタッフが確認に努めている。誤薬防止の為、与薬まで3回違う職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に活かせるように支援している。テーブル拭きや洗濯物たたみは日課となっている。朝食前に神棚に供え職員と一緒に、皆さんしっかり手を合わせてお参りされる。9時過ぎから30分程の体操も日課となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の為、病院受診を兼ねたご家族との外出をはじめ地域のサロンや行事等に参加できない状況もあったが、季節ごとに花見やドライブなど、外出支援を行っている。11月家族の誘いもあり、芋掘りにでかけた。	家族との外出(病院受診他)や地域行事への参加などは控えているが、季節の花見や地域物産館への外出は全員で参加する事が出来ている。また、入居者家族の好意により芋ほりに出かけ、収穫を楽しんだ後は、料理やおやつへ活用され入居者も大変喜ばれたようである。これらの様子は広報紙の中でも紹介されている。現在は訪問理容が中心であるが、中には「コロナが終息したら以前利用していた美容室へ出かけたい！」という要望を出されている方もおられる。	家族からの要望に応え、以前のように声掛けを行い一緒に外出を楽しめるような取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どどの利用者家族より現金を預かっているが、スタッフがご家族の代わりに利用者の日用品の購入を行うこともある。その際は、ご家族にも連絡、報告を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況、お知らせについて毎月の手紙として送付している。ご家族からの電話は取り次ぎをする体制ができており、その時は、ご本人に電話口に出いただき、直接会話をさせていただく。面会に制限がある時期は、ライン電話で話していただいた。本人へ家族から手紙が届いたりする。本人の前で手紙の代読をさせて頂き支援したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間に花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に努めている。また、馴染みの音楽や録画により心豊かに過ごしていただけるよう工夫している。壁面には季節ごとに切り絵等を貼り、四季折々の雰囲気味わっていただいている。	1ユニットのフロア内には敷地内に咲いた草花を飾ったり、壁面に入居者と一緒で作成した月ごとの作品が掲示され季節を感じる事が出来る。また、コロナ5類移行後も掃除や換気、消毒などを徹底している。現在は全員女性の入居者でレクレーション時は特に賑やかに過ごされている。席の配置は身体状況や相性などを考慮して決定している。ホーム内やベランダなどの改修が必要であれば、法人の営繕担当者により速やかに対応がされている。また、入居者も夏野菜収穫後のネットの片付けや草取りなど環境整備に取り組みされる光景が広報紙からも確認された。	テレビの視聴については入居者に関心がある内容か、つけっぱなしになっていないか等配慮する必要があると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の食堂ホールには、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、また少しでもお一人お一人の空間を確保できるよう、これまでの2~3人掛けのソファを1と1人掛けのクライニング椅子にて本を読んだりゆっくり過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や御家族との思い出の写真を飾ったり、好きなお花を飾ったりする事により居心地良く過ごせるように心がけている。	入居時に基本的な持参物(布団や衣類をはじめ本人が使用していた物など)や部屋にある事で安心される物について説明している。また、遺影の持ち込みも可能であることを伝えている。家族の写真については、帰宅願望に繋がる場合もあり状況や本人の思いに沿って検討している。居室の入り口には花の写真が貼られ、目印にもなっている。まだ居室への入室が制限されており、ベッドの向きや居室内の雰囲気などを窓側から確認される家族もおられるようである。	家族は居室内の整頓や掃除、衣類の確認などが気になる事と思われる。入室制限が続くようであれば、家族の気になる点を聞きながら、報告されることで安心につながると思われる。また家族の協力も得ながら、本人の趣味や好み(花・生き物・車など)のカレンダーの掲示も居室の雰囲気づくりに有効と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札や目印の人形、トイレ等に表札を掛けて、分かりやすい言葉で表示している。また、ホールや廊下には危険になるような備品は置かないようにしてリスクの回避に努めている。		